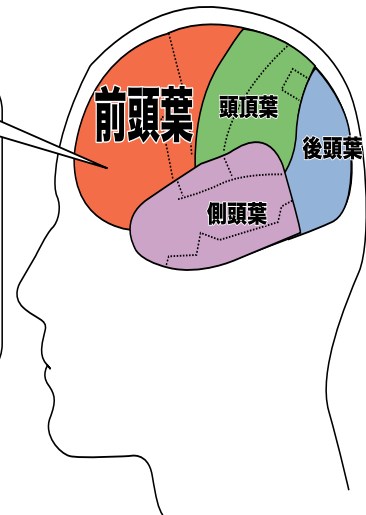


"脳"のはたらき

前頭前野

- 思考
- 創造
- コミュニケーション
- 意志の決定
- 情動の制御
- 行動の抑制
- 記憶のコントロール
- 意識、注意の集中
- 注意の分散 など



昨年はちょっとした“脳ブーム”でした。“ボケない脳を作ろう”を合言葉に、大人向けの関連ゲームソフトや計算ドリルなどの書籍がベストセラーとなりました。この背景には認知症や介護の問題がクローズアップされてきた中で、いつまでも健康でいたいと願う人々の想いがあります。また「脳を鍛える」という考え方に対して、様々な検証が進み、実証が進んだということもあげられます。特に「前頭前野」といわれる部分の働きに注目し、これが今の子どもが抱える多くの問題の根本的な“カギ”ととらえたものが、今回の「生活改善・学力向上プロジェクト」です。成長段階である子どもの脳をダメージから回復させ、鍛え直すことで、本来の「元気」で「生きる力をもつ」子どもになって欲しいと、学校の先生をはじめとする多くの方々が、子どものもつ可能性を信じて、正面から取り組んでいます。



脳いきいきプラン



脳を活性化させることにより、すべての年代の人の「生きる力」を高め、はつらつとした人生が送れるよう支援しようという「脳いきいきプラン」。写真は、成人から高齢者を対象にして行っている「脳いきいき講座」のようす。

▼テレビ会議システムを利用して行われた対談のようす。テレビに映る陰山先生に話しかける江澤教育長。



向く子もいます。山陽小野田市でそうした生活実態アンケートと成績との相関関係を調べていただき（広報9月15日号に掲載）、データ的な裏付けも得られたということはたいへん興味深い報告でもありました。

【江澤】このプロジェクトを進めるに当たって、市内の全小学生に、学力検査、知能検査、生活実態調査を受けてもらい、生活習慣と学力・知能指数との関係を数値化したところ。その結果から、生活習慣の乱れと学力や知能指数の間には明らかな関係があることが分かりましたので、保護者や子どもに関心を持ってもらうために、成績順生活習慣ランキングとして発表しました。これらを保護者に示すことによって、生活習慣の改善を実行していただくきっかけにしたいと願っています。

テレビ・ゲーム・インターネットは、「見せない」「遠ざける」のではなく「絞る」こと

【江澤】現在の子どものに関する諸問題は、根本的には社会構造、特に市場経済・個人主義・マスメディアの在り方が、人間に適したのから離れてきていることにあると考えています。その影響は、家庭を通して、特にテレビ・ゲーム・インターネットというメディアを通して子どもに浸透し、子どもの心を崩しているのではないのでしょうか。

【陰山】メディアの影響力は否定できないと思います。子どもの価値観を狂わせる情報源は、かつては悪い仲間、友達でしたが、今はインターネット、テレビ、ビデオから入ってくるわけですし、さらに厄介なのが、大人より子どものほうがそれらの操作に長けていて、親がついていけないという現状があります。た